

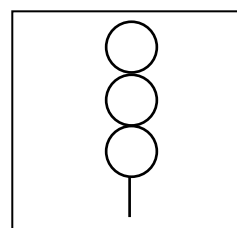
SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	水谷 清二	学校名	豊田市立元城小学校
実施学年	小学2年生	教 科	国語
単元名	ことばで絵をつたえよう		

《学びを深めたいポイント》

本単元は、丸や三角、四角や直線といった、簡単な図形・線を組み合わせて絵を描き、その絵を、友達に言葉で説明する学習である。絵の例として、丸を「団子」に見立て、「団子」に直線を付けた「くしだんご」などが挙げられる。（右図参照）

本単元は、どのように説明したら、聞く人が絵の様子を思い浮かべることができるかを想像し、適切な言葉を選び、分かりやすい説明を話すことができるようになることが目標である。そのために、学習の過程で児童は、絵の説明をするときにどのような言葉を使って話すと、絵の様子が伝わりやすいか、考えていく。「はじめに～、つぎに～」といった順序を表す言葉や、「〇〇の上に～」「横に～」といった場所や向きを表す言葉などを使うと、伝わりやすくなることに気付かせていきたい。



《SKYMENU 活用のポイント》

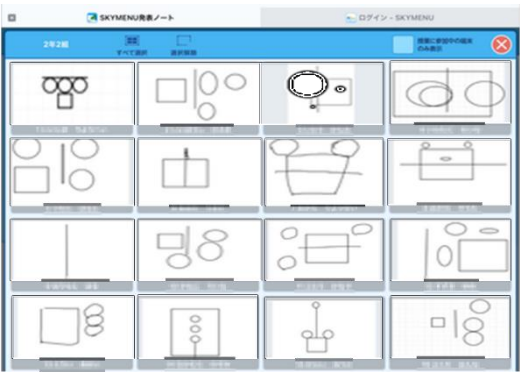
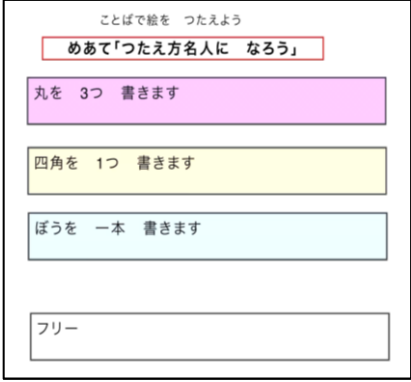
絵の説明は相手に伝わったか、説明の言葉選びは適切だったかを振り返ることができるようにするために、相手の児童も、説明を聞きながら絵を描く。説明が終わった後、説明をした児童と同じような絵が描けているかどうかで、説明の言葉が適切だったかを確かめることができる。

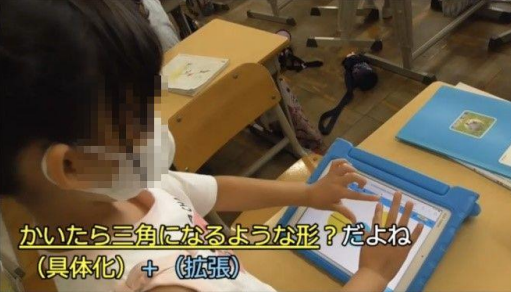
しかし、児童の中には図形を手描きすると、形が歪になったり、大きさが揃わなかったりする子もいる。描いている本人はそのつもりがなくても、他者から見ると、絵が説明とは違うように見えることもある。そのため、お互いの絵を見せ合ったとき、ふり返りのポイントが「説明の言葉が適切であったか」という視点からずれてしまうことがある。描画能力の巧拙が、上記《学びを深めたいポイント》に記した本単元の目標の達成に影響を及ぼすことを、避けたいと考えた。

そこで、発表ノートで絵を描くことを構想した。発表ノートは、ノート上に任意の大きさの図形を描くことができるので、本単元の絵を描くことに適している。手描きで図形を描くことが苦手な児童も簡単に、素早くきれいに丸や三角を描いたり、色を塗りつぶしたりことができることから、どの児童にとっても苦手意識を和らげ、楽しみながら学習に取り組むことができるだろうと考えた。

さらに、絵を描くだけでなく、説明の言葉も発表ノートのテキストボックス上に書く。言葉の順番を入れ替えたり、必要な言葉を書き加えたりすることが容易にできるため、描画、作文にかかる時間が短縮され、子ども同士の関わり合いや、ふり返りの時間を十分とることもつながる考えた。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1 担任の説明を聞き、発表ノートで絵を描く。 ○ 「くしだんご」の説明 「丸を3つ描きます」 「四角を1つ描きます」 「直線を1本描きます」 簡潔な説明をする。 2 本時の課題を確認する。	 【学習活動1 児童が担任の説明を聞いて描いた絵】	○ 「画面一覧」から、全員が描いた絵をすぐに見合うことができる。子どもたちは、全員がバラバラの絵を描いていることを知り、「分かりやすい説明で伝える」ことの大切さを実感する。
つたえ方名人になろう			
展開	2 「くしだんご」の描き方を説明するには、どのような言葉を使えばよいか、話し合う。 3 自分の絵と描き方の説明を、発表ノートに書く。 ○ 配付された発表ノートに、簡潔な図形・線で絵を描く。 ○ 発表ノートの2ページ目に用意されたテキストボックスに、説明の言葉を書く。	 【学習活動2 話し合い場面の板書】  【学習活動3 児童が描いた絵】  【学習活動3 絵の説明を描くページ】	○ 全員が描いた絵と、手本となる「くしだんご」の絵を比べることで、どのような言葉を使えば分かりやすいか、考えることができる。 ○ 発表ノートに絵を描くことで、どの子も素早く、見やすい絵を描くことができていた。絵の微調整もスムーズにできるので、ほとんどの子が描画に時間をかけすぎることなく、説明を考える段階へ進むことができていた。

	4 友達に絵の描き方を説明する。 ○ 説明を聞く側の児童は、説明を聞きながら、3ページ目に絵を描く。 ○ 絵が描けたら、お互いの絵を見せ合い、「説明の言葉は分かりやすかったか」「どのような言葉で言えばよかったか」を話し合う。	 で、色を黄色にして 【学習活動4 絵の描き方を説明する】  たぶん、このだんごの上に、この月みたいな… (推量) 【学習活動4 黄色の丸の位置をどのように説明すればよかったか話し合う1】  かいたら三角になるような形？だよな (具体化) + (拡張) 【学習活動4 黄色の丸の位置をどのように説明すればよかったか話し合う2】	○ 図形の形や、色が、同じ規格で描くことができているので、話し合いの焦点が、「説明の言葉」からぶれずに振り返ることができていた。
ま と め	5 本時のふり返しをする。		
どのような言葉で説明されると、絵の様子が分かりやすいと感じたか。 元の絵と、自分の描いた絵が違っていた場合、どのような言葉で説明されたら、分かりやすかったか。			

《実践を振り返って》

授業は、最後のふり返しまで十分に時間をとることができた内容となった。本単元を始めるにあたり、危惧していた「描画能力の差が、本時の目標達成に影響する」ことについて、発表ノートの使用によって必要な支援を行うことができたのではないかと感じる事ができた。

多くの児童が、「はじめに～、つぎに～」といった順序を表す言葉や、場所・向きを表す言葉を適切に使い、一生懸命自分の絵を相手に伝えようとする姿が見られた。どの子も、自分の絵が「描けた」と自信をもっているからこそ見られる姿だと感じる。

机間指導で児童に声をかけたことは、説明の言葉についての補助がほとんどで、絵の描き方についての悩みや困り感は感じられなかった。

これからも、各単元の目標を見据え、目標に達するためにどのような支援が必要か、常に考えていきたい。その際の手立ての一つとして、SKYMENU Cloud を選択できるよう、技術を高めていきたい。